

## 現職教育

### (1) はじめに

本校は長年にわたり、「地域」と共に、「地域」と一体となり教育活動を進めてきた。そして今年度も児童が「地域」に親しみ、「地域」を知り、「地域」と共に学ぶことを大切に研究実践に取り組んでいこうと考えている。

特に、加太の海をはじめとした自然環境や、その他地域の学習資源を中心に、地域を活用した単元構成を図り、地域教材に関わる体験活動を充実させた、「地域学習」に継続して取り組んできている。

今年度は、昨年度研究主題として模索し実践した「社会に開かれた教育課程の創造」を継承するとともに、引き続き地域の「人」「もの」「こと」を取り入れながら、長年にわたり取り組んできているもの（加太の学び）、児童の学びに直結させてきたもの（教科横断的な学び）、児童の学びを繋いできたもの（主体的・対話的な学び）など、さまざまな資源を題材とした活動を、より深い学びに結びつけられるようマネジメントしようと考えている。そこで今年度も特に次の3点を中心に研究実践を進めたい。

- 「加太ストーリー(地域素材を教材化し、教科横断的に学びの系統図を示した年間単元指導計画)」の作成
- 体験活動の充実
- 研究授業公開

### (2) 研究主題

小規模校として加太オリジナルの創造と実践  
～ヒト・モノ・コトとの連携・協働～

### (3) 研究主題の分析と設定の経緯

「これからの時代を、自立した人間として多様な他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力をどのように捉えるか。その際、我が国の子供たちにとって今後特に重要と考えられる、何事にも主体的に取り組もうとする意欲や多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力、さらには、豊かな感性や優しさ、思いやりなどの豊かな人間性の育成との関係をどのように考えるか。また、それらの育成すべき資質・能力と、各教科等の役割や相互の関係はどのように構造化されるべきか。」

(文科教育課程企画特別部会 H27.3.26 「これからの時代に求められる…」)

すでに実施されて3年目を迎える学習指導要領だが、その作成にあたり論点整理する際に常に問い続けられた3つの問いが上記に示されている。いわゆる「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「何を学ぶか」である。総じて「これからの時代を生きる子供」に求められる資質・能力、これが新課程出発点となるキーワードだった。

本校でも、「これからの時代を生きる子供」をキーワードに、新課程実施初年度は「主体的・対話的で深い学び」を、2年目では「社会に開かれた教育課程」を主題に設定し、これからの時代を生きるための資質・能力を身に付ける教育課程の姿を追ってきた。

今年度の研究を出発させるにあたり、私たちにはまず過去2年間進んできた道を総括する必要があった。そこで共有したことが「加太っ子の資質・能力」の“現在形”と“未来形”である。

#### 【本校児童の現在形】

- ・縦の関係の中での学びが大きく、学年間の壁があまりない。
- ・友達に優しくでき、素直な子が多い。
- ・体を動かすことを好む等、活発な子が多い。
- ・学習（学ぶこと）に対して意欲が薄い。
- ・文章を書くこと、文章で表現することが苦手。
- ・大勢の前で発言することが苦手。また意図を相手に伝える言語力が弱い。
- ・すぐにあきらめてしまい、粘り強くがんばれる児童にしたいが・・・。
- ・情緒面で支援が必要な児童がグレーゾーンとして多くいる。また、LD傾向の児童も複数いる。
- ・集団としての意識より、個人としての思いを優先する傾向が強い。

#### 【本校児童の未来形】

- ・つけるべきものは確実につけていく子供（＝学力）
- 「できなくても仕方ない」にはならないように
- ・人の話を聞く子供 → 高い意欲をもつ子供 → 思いやりのある子供
- ・グループ活動を通しての学ぶ子供
- ・言語力、語彙力をつけた子供
- ・伝える力をつけた子供
- ・粘り強く取り組める子供→目標に変えられる子供
- ・生活の中から疑問を見つける子供
- ・成長したい、を具現化できる子供
- ・自分事としてとらえる子供
- ・書く力を高める子供 = 振り返り活動を大切に
- 「教えて」と言える子供

- ・ 責任感のある子供
- ・ 自分に強く向き合える子供→自信をつける子供
  - ・ ・ ・ 楽しいことばかりやるのではなく

おおまかではあるが、全職員で本校児童の資質・能力を共有することで、すべての教育活動の各場面で同じ方向を向きながら進むことが確認できた。こうして学習に関する視点のみならず、人間性の育成との関係をどのように考えるか、などを問いながら子供たちと向き合う日常が始まることになる。

過去2年間の研究には、地域の人、もの、ことを題材にすることや、グループおよび他者と協働する学びをねらうこと、各教科等の役割や相互の関係を探ってきたことなどを継続している共通点も見られた。そこで今年度もこうした地域のヒト・モノ・コトとの関わりの中で教科横断的にカリキュラムをマネジメントしていき、「これからの時代を生きる子供」の資質・能力に叶うものとすることを確認した。こうして多様な他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力を共有し、学びが始まることになる。

さらに今年度は本校が「小規模特認校」としての1年目となることも研究に取り入れようと考えた。そこで上記共有することで進むべき方向を揃えた研究に、さらなる明確なゴールを「加太オリジナル」と定めた。「加太オリジナル」とは、①情報レベル ②気づき及び課題設定レベル ③アクションレベル ④成功体験のレベル で地域のヒト・モノ・コトと共有しながら進む学びを呼ぶ総称とし、この一連の活動を創造していく姿を本校の特徴として、特認校として「加太オリジナル」を外部に発信するという地域の義務にも応えたいと考えた。

このような経緯を踏まえ、本研究主題を設定するに至った。

#### (4) 研究仮説

地域素材を各教科・領域に位置付け、単元構成した「加太ストーリー」のもと、児童が共通の「めあて」や「課題」に向かい、主体的に友達や地域のヒト・モノ・コトと活動を共有しながら学習活動を展開すれば、「これからの時代を生きる子供」に必要な資質・能力が育つであろう。

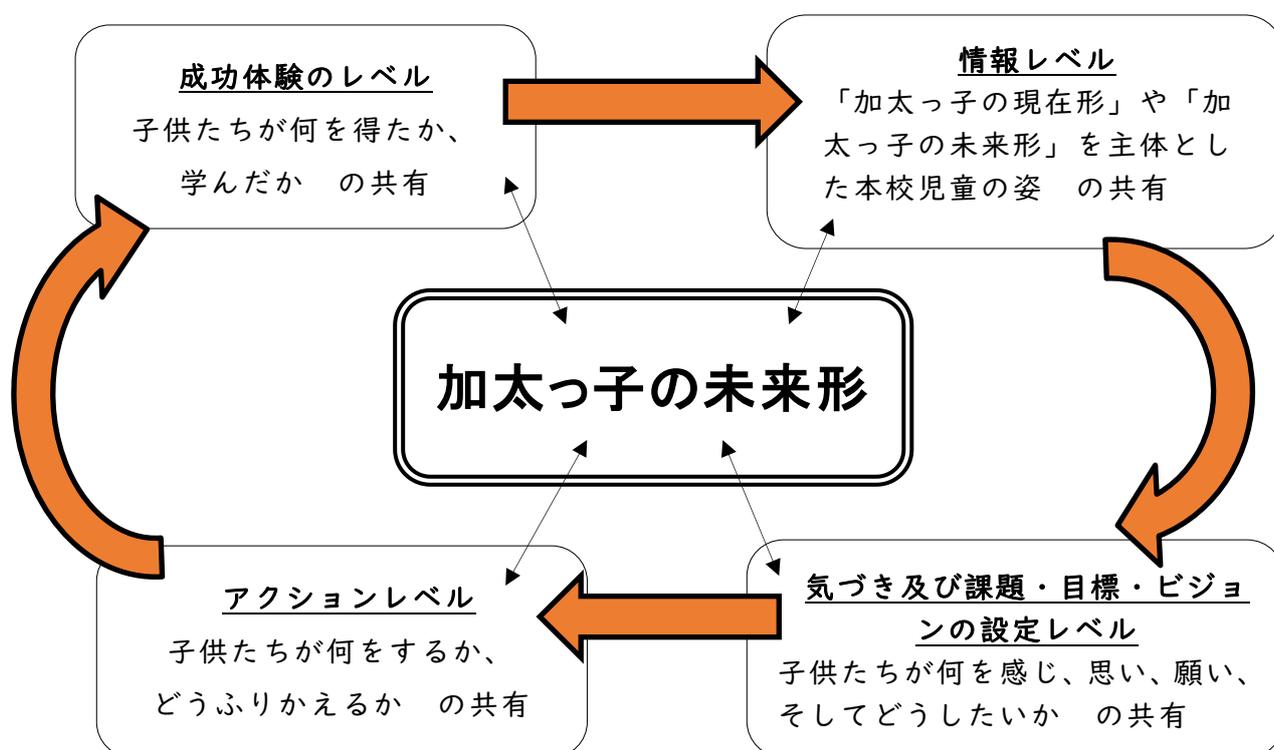
#### (5) 研究実践内容

「社会に開かれた教育課程」の実現のため、学校運営協議会との連携等その役割が取りざたされるが、そこで大切とされる4つの「共有」は、そのまま本校研究実践において進められる「他者との協働」の際にも取り入れたいと考える。今年度の研究として「他者」とは加太に有する「ヒト・モノ・コト」とおさえることにする。

##### ① 4つの共有

- 情報レベル・・・「加太っ子の現在形」や「加太っ子の未来形」を主体とした本校児童の姿の共有
- 気づき及び課題・目標・ビジョンの設定レベル  
 ……子供たちが何を感じ、思い、願い、そしてどうしたいか の共有
- アクションレベル・・・子供たちが何をするか、どうふりかえるか の共有
- 成功体験のレベル・・・子供たちが何を得たか、学んだか の共有  
 「加太っ子の未来形」にどのくらい近づいたか の共有

② 4つの共有の相関図



③ 研究主題に係る取組概要

- ・「加太ストーリー」(年間単元指導計画等)の作成 …(後例示参照)
- ・大単元、小単元等の設定、(総合単元的な単元設定)
- ・単元を貫く「地域」教材の設定と評価(付けたい力に適した、「地域」教材設定と適切な評価の在り方)
- ・学習活動の系統性を意識する。1年間を見通した単元構成「加太ストーリー」を基に授業実践を行い、必要に応じ適宜見直しや検討を図る。
- ・体験活動の充実(設定と精選)。
- ・毎時の授業展開(指導形態等)の徹底 「めあて設定」→「個人思考」→「集団学

習)」→「ふりかえり」の学習展開の定着と児童の学習状況の分析。

- ・児童が「考えてみたい、訊き合いたい」と思えるような「めあての設定」を重視した学習展開。
- ・児童の課題解決のプロセスにおいて、考えや思考が深まる発問(内容とタイミング)と「わからないから教えて?」「どうすればいいの?」と訊き合う活動(一人・ペア・グループ・全体)の在り方。
- ・上記項目に特化した授業提案や授業公開、研究協議の実施。

④「加太ストーリー」の作成と実施 …(後例示参照)

- ・各学年「加太ストーリー」の作成。  
各単元を貫く「地域」教材の設定(付けたい力に適した各単元を貫く地域教材の設定を行い、1年間を見通した地域学習「年間単元指導計画」を作成し、学習内容の系統性を大切にされた総合単元的な実践研究に努める。
- ・「加太ストーリー」をもとに学習内容の系統性を大切にされた授業提案の実施。  
併せて、研究主題等に焦点化した研究協議に努める。